

男女共同参画教育 実践事例

指導者 前原市立南風小学校 潮 洋光

1 男女共同参画教育の意義

(1) 現代社会の要請から

現代は、核家族化・兄弟姉妹の数の減少・遊び場の喪失・地域社会の結びつきの希薄化、電子メールの多様化等により、多様な人間関係を築く機会が損なわれがちである。また、男女の性別による差別や偏見が払拭されているとは言い難い。

このような現代社会の現状を受け、学校教育現場において、相手とのかかわり方を考えたり、協力したりする場を意図的に設定することは必要なことだと考える。特に、高学年においては、男女の性差を意識し始める年代であり、その年代において、性差にとらわることなく、男女が協力し助け合うことは大変意義があると考えられる。

(2) 学校・学年の教育目標から

本校は、『共に生きる喜びを感じ、実践する子どもの育成』を教育目標に掲げ、「心の教育」に重点を置いている。その中でも道徳の学習を中心に、「心を育てる体験活動」を重視している。そして本年度は、「学びの力」と「思いやりの心」の具現化を図るための教育活動の充実を行っている。また、学年としても「相手の立場を受け入れ、自分の役割を果たすことができる子ども」をテーマに、人の痛みがわかり相手の気持ちが理解できる深い人間的な感情と思いやりの心で接しようとする心を深め、今までの道徳的体験を振り返り、あるべき姿を目指そうとする子どもの育成をねらっている。

これらの学校・学年の教育目標を達成する上からも、男女がお互いを尊重し合い、協力し助け合うことは意義深いと考えられる。

(3) 本学級の子どもの実態から（男子 19 名 女子 18 名 計 37 名）

本校は開校 8 年目で新興住宅地にあり、転入生も多く、昔からの地域のつながりや家庭の連携が少ないといえる。一方で、本校と南風校区公民館「ひまわり」とが隣接していることもあり、行事を学校と地域が連携して取り組んでおり、学校を中心に地域のつながりを築いていこうとする意識は高いといえる。本学級は 5 学年 4 月学級編制があったため、当初は友達関係や相互の信頼関係が十分にできておらず、お互いを牽制し合っている状況であった。また、様々な活動を通して、少しずつ人間関係が構築される中でも、仲のよい友達としか本音で話さない、性差を意識したグループ分けをしてしまうといったことがよく見られた。さらに、学級でのレクリエーションを行う際も、身体的や技術的な性別の差を考慮せずに、活動を計画・実行してしまい、お互いに不満をもつといった場面も見られた。

こうしたことから、男女がお互いを尊重し合い、協力し助け合って活動することが大切だと考えた。そこで、年間を通して、子ども達が、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、男女が協力し助け合って実践できる心の育成をねらいとすることは意義深いと考えられる。

2 めざす子ども像

相手に対する思いやりや親切な心を持ち、男女が協力し助け合って実践できる子ども

3 指導計画

(1) 4つの段階を通した取り組み

「相手に対する思いやりや親切な心を持ち、男女が協力し助け合って実践できる子ども」を育てるために図 1 で示す通り、まずは「思いやり」について気づく必要がある。そして、自分の「思いやり」に気づいた上で、お互いに「思いやり」の心をもって行動ができなければならない。そうして、「思いやり」の行動を実践するために、男女がお



図1 「男女協力」の心を育てる4つの段階

互いにかかわり合い、自己や周りの友達の「思いやり」やよさに気づき、認め合うことで「思いやり」の行動であふれる学級の支持的風土が培われる。さらに、子どもが男女が互いに協力し助け合って「思いやり」を実践するようになる。この「思いやり」の行動を実践する過程において、「相手に対する思いやりや親切な心もち、男女が協力し助け合って実践できる子ども」を育てることができると考えた。

学級の中で以下の子の変容追って、取り組みを考察していく。

A 児	B 児	C 児
学級を中心となって活動することが多く、誰に対しても優しく接することができ、周りからの人望も厚い。	特定の友達とは仲良くすることができているが、気が合う友達以外とは、たまにトラブルが起こる。	自分の立場は主張できるが、周囲との関係をうまく築くことができていない。

(2) 道徳の時間とのかかわり

4つの段階をふまえた取り組みを通して、相手に対する思いやりや親切な心もち、男女が協力し助け合って実践できる子どもを育てる際、それぞれの段階において、道徳の時間を生かすことが必要だと考える。そのために、以下の2つの組み合わせの工夫を行う。

1 特別活動の体験を道徳の時間で生かす取り組みの工夫

子どもたちが、特別活動を通して様々な人たちとのかかわりや体験をする。その体験を道徳の時間に価値付けすることで、自己のよさや道徳的自覚の深まりを実感することができるようにする。

2 道徳の時間で学んだ心を特別活動で生かす取り組みの工夫

道徳の時間で道徳的価値の自覚を深めることで道徳性が深まる。その道徳性を特別活動で発揮できるような取り組みを設定する。

(3) 指導計画の展開

	月	道徳の時間	特別活動	評価
アンケート調査などによる実態把握				
第1段階	5年	気づく段階 「自分の中にある男女協力の心に気づこう。」		アンケート イメージマップ 作文
	9 10	○主題「だれに対しても親切に」 (思いやり・親切) 資料「くずれ落ちたダンボール箱」 (資料1)	○学校行事 「野外学習」	
第2段階	11	認め合う段階 「みんなの中にある男女協力の心を認め合おう。」		アンケート イメージマップ 作文
	12	○主題「自分のよさを見つけよう」 (個性伸長) 資料「トマトとメロン」	○学級活動(1)集会活動 「2学期まとめの会」	
第3段階	1 2	実践する段階 「男女協力の行動を実践しよう。」		アンケート イメージマップ 作文
	3 6年 4	○主題「最高学年として」 (愛校心) 資料「二人のボランティア」	○学級活動(1)係活動 「思いやりいっぱいキャンペーン」 ○学級活動(1)集会活動 「1年生との交流会」など	
第4段階	12	実感する段階 「これまでの男女協力の行動をふり返ろう。」		アンケート イメージマップ 作文
		※これまでの実践を実感し、 高揚感を味わえる資料を選定	○学級活動(1)話し合い活動 「思いやりいっぱいキャンペーンの集大成をしよう」	

	学習活動と内容	教師の支援	発問・指示・説明
気づく	<p>1 今までの自分を振り返り、本時学習の方向をつかむ。</p> <p>(1) 親切についてこれまでの自分の行動を想起させ、本時学習のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに席を譲る。 ・ボールを譲る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">親切にする時に大切な心を見つけよう。</p>	<p>○親切に関しての アンケートの結果を提示することで、自分の体験を想起させ、本時のめあてをつかませる。</p>	<p>説 これは、学校や日常生活で親切にしたことがあるか聞いたアンケート結果です。(予想させながら提示する。)</p> <p>説 みんなはこれまでにどんな親切をしたことがありますか。</p> <p>説 今日は、親切にするときにどんな気持ちを大切にしたいのか考えていきましょう。</p>
深める	<p>2 資料『くずれ落ちただんボール箱』をもとに、思いやり・親切の価値について話し合う。</p> <p>(1) 「わたしたち整理しますから、さがしに行ってください。」「男の子が迷子になってしまいます。」と言った「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p>(2) おばあさんにお礼を言われたときの「わたし」の考えについて学習プリントに書き、小グループ話し合い活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼を言われたけど、すっきりしない。 ・困った人がいたからやったんだ。 ・困った人がわかってくれればいい。 <p>(3) 校長先生の話聞いた後の「わたし」の気持ちを考え、学習プリントに書き込み、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とっても清々しい気持ちになった。 ・あの時手伝ってよかった。 ・困っている人を助けて良かった。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">だれに対しても、相手の立場にたって親切にしようとする心</p>	<p>※資料を読む。</p> <p>○資料を絵と短冊を使ってわかりやすく整理する。</p> <p>○「わたし」の気持ちの変化をおさえることで、「わたし」がおばあさんの立場に立って親切な行為をしていることに気づかせる。</p> <p>○プリントに記述させた後、グループで話し合い活動を行わせることで、「困っている人を助けられたのでうれしかった」といったさらに価値の高いうれしさに迫らせる。</p> <p>○学習プリントに心情図を作成することで、話し合いを通して自分の考えの変化や深まりに気づかせる。</p> <p>※店員さんからの手紙を提示し、読む。</p>	<p>説 今日は、「くずれ落ちただんボール箱」という資料です。主人公の「わたし」に寄り添いながら読んでいきましょう。</p> <p>発 どうして「わたし」はおばあさんの代わりに段ボールを片付けたのでしょうか。</p> <p>発 店員さんにしかられて「わたし」はどんな事を思ったのでしょうか。</p> <p>発 おばあさんにお礼を言われた後、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>発 校長先生の話聞き終えて「わたし」はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>説 めあてに戻ります。今日は、親切にする時に大切にしていきたい心について学んできました。</p> <p>発 みなさんは、この資料を通してどんな心を学びましたか。</p> <p>説 これから、みんなが大切にしたいことは『だれに対しても、相手の立場にたって親切にしようとする心』ですね。</p>
見つける	<p>3 これからの自分を見つめて、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食をこぼしたとき、すぐにまわりの友だちが拭いてくれた。これからは、私も困っている人を助けたい。 ・わたしも、この主人公のように相手の立場に立って人に接していきたい。 	<p>○自分の体験を振り返りながら、これからの自分を見つめられるように声かけをする。</p> <p>○これまでの自分自身の親切についての体験を、作文を使って想起させる。</p>	<p>指 作文を読み返してみてください。これまでのあなた自身の親切について振り返って見てください。</p> <p>指 作文を読み返したり、これまでの経験を思い出して今日の学習の振り返りを書きましょう。</p> <p>指 では、発表してください。</p>
あたためる	<p>4 困っている人を助けようとしていた姿をVTRで紹介し、価値をあたためる。</p>	<p>○「玄海の家」の職員から野外学習で親切にしていた時の様子と気持ちを話してもらい、これからの実践意欲を高めさせる。</p>	<p>説 今から、先週野外学習でお世話になった「玄海の家」の人からのVTRを流します。静かに見てください。</p>

(資料1) 「くずれ落ちただんボール箱」本時指導案

4 研究の実際と考察

(1) 実践1 (5学年：9月～10月)

第1段階 気づく段階

本段階のねらいは、「男女協力」の心に気づくことである。そのために、まず子ども達に野外学習において、友達や施設職員の方とかかわる体験をさせる。そして、道徳の時間において、資料を活用し、自分達の体験をもとに、だれに対しても親切にする思いやりの大切さについて考えさせた。

ア 特別活動 学校行事「野外学習」

福岡県立少年自然の家「玄海の家」での野外学習において、子ども達が多くの人とかかわり合いながら活動できる場を以下のように設定した。

①役割分担の細分化

②細分化した役割ごとのミーティング

③活動後の「思いやり」についてのふり返り

子ども達は、友達の考えや役割を意識しながら、一つのことを成し遂げることのすばらしさを肌で感じる事ができた。そして、ふり返りには、「多くの友達と協力することで一人一人のことを思いやる事ができた。」「仲のよい友達以外の人とも、男女関係なく思いやりのある行動ができた。」「自然の家の職員さんに対しても、思いやりのある行動をすることができた。」との記述があった。子ども達は、野外学習を通して、男女関係なく自然に相手を意識して行動することを体験することができた。

(写真1)

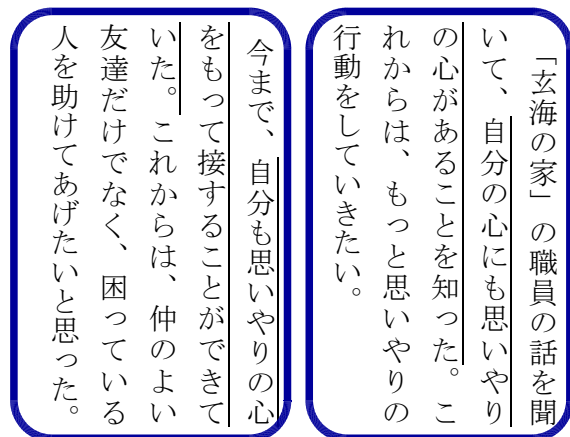


写真1 野外学習の様子

イ 道徳「くずれ落ちたダンボール箱」(出典：文溪堂)

学校行事「野外学習」を受け、道徳資料「くずれ落ちたダンボール箱」で、学習プリントを活用して主人公の気持ちに共感させながら、だれに対しても思いやりの心で接することの大切さについて考えさせた。その際、施設職員からのビデオレターを用いて、野外学習での子ども達の思いやりの行動を価値づけすることで自分自身の心を見つめ直させた。(写真2)

子ども達は、学習のふり返りにおいて、これまでの自分の行動をふり返り、「これまで、自分の心にも思いやりの心があった。」という記述をし、自分の中の思いやりの心に気づいていた子どもが89%いた。子ども達は、「思いやり」の心に気づき、これからも相手の気持ちを考えて行動しようとする意欲を高めることができた。(資料2)



資料2 授業のふり返り



写真2 ビデオレターを見る子どもの様子

A 児	B 児	C 児
今までは、親切にはしていたけど、相手の気持ちを考えずにしていたので、これからは、 <u>相手の立場に立って親切にしていきたい。</u>	知らない人に親切にするのは恥ずかしいけど、 <u>思い切って親切にすれば相手は喜んでくれる</u> ということがわかった。	僕は、外国人にも電車の中で席を譲った経験がある。だから、これからも <u>他人であろうと関係なく親切にしたい</u> と思った。

〔第1段階の考察〕

学校行事「野外学習」における共通体験をもとに、価値を深める道徳の時間の学習を位置づけたことで、子ども達に自分にも思いやる心が育っていることに気づかせ、これからの自己について考えさせることができた。しかし、道徳の時間のビデオレターの中で、数名の子どものことしか取り上げるのではなく、学校行事後の自分の感想や日記などで、自分にも思いやる心があると実感させる個に応じた手だてが必要だと感じた。

(2) 実践2 (5学年：11月～12月)

第2段階 認め合う段階

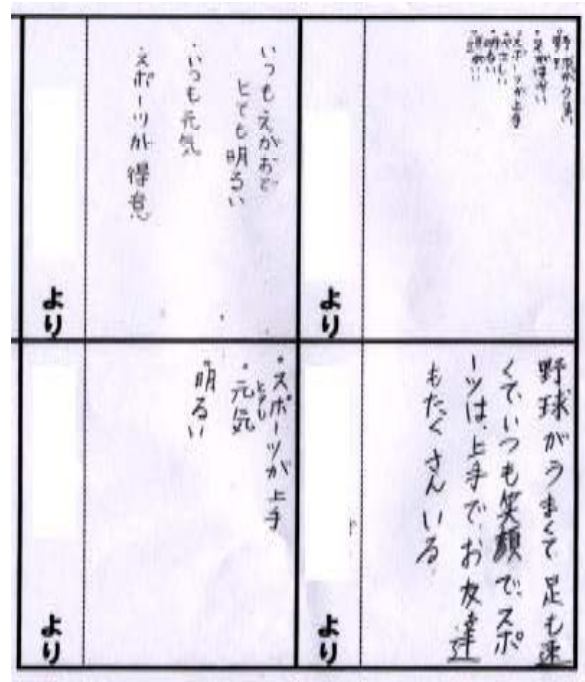
本段階のねらいは、よりよい自分に向かって努力することの大切さを学び、お互いの男女協力を認め合うことである。そのために、道徳の時間で学んだ心を学級活動(1)集会活動において発揮させるために一人一人に役割を持たせ、それぞれのよさを生かすことができる活動を仕組んだ。

ア 道徳「トマトとメロン」(出典：東京書籍)

道徳の時間において資料「トマトとメロン」を活用し、自分のよさを発見し、そのよさを生かして生きていこうとする心の大切さについて考えさせた。友達とそれぞれのよさを見つけ学習プリントに書き、お互いに伝え合う活動を行った。(資料2)

また、欠席している友達のよさを班のみんなで出し合いながら自主的に書くという姿も見られた。どの子どもも自分のよさを認められることで、笑顔があふれていた。

学習のふり返りにおいて、「これからは自分のよさを生かしていきたい。」「これからも友達のよさを見つけていきたい。」という記述をしている子どもが81%いた。子どもたちは、よりよい自分に向かって努力することの大切さを学ぶことができ、友達のよさを見つけ認め合う支持的風土が学級全体に育まれつつあるといえる。



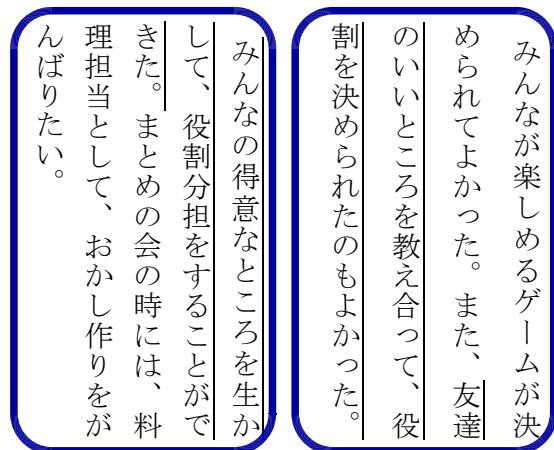
資料3 いいところ見つけカード

A 児	B 児	C 児
それぞれのよさがあることが分かったので、これからは、 <u>いろいろな人と協力して、自分のいいところをもっと増やしていきたい。</u>	人は <u>それぞれ同じところもあれば違うところもある。</u> 苦手なこともある、得意なこともあるということを学んだ。	自分は自分らしく生きていけばいいと思いました。これから、 <u>自分の命を大切に自分らしく生きていきたいです。</u>

イ 学級活動「2学期まとめの会」

一人一人のよさが集まって学級ができていることを改めて実感させるため、道徳の時間で学んだ個性伸長の心を生かして、「2学期まとめの会」を行った。まず、学級会で2学期まとめの会の内容を「みんなが楽しめる」と「2学期をふり返られる」の二つのポイントを意識しながら話し合った。話し合いの中で、バスケットボールの時間に指を骨折した女の子のことを思いやり、「バスケットボールやドッジボールはDさんができないからやめた方がいいと思います。」という意見が出た。また、役割分担をする際も、「料理が上手だから料理担当がいいんじゃない。」「おもしろいことできるから出し物をしてよ。」「折り紙が上手だから飾り付け手伝って。」等と友達のよさを伝え、それぞれのよさを生かして活動することができた。子ども達は、自分達で決めたことを成功させるために、一人一人が自分のよさを生かして、出し物、飾り付け、進行、ゲーム担当などの役割を担って準備に取り組んだ。

2学期まとめの会当日も、子ども達は自分の役割を果たし、それぞれの出番で活躍することができていた。(写真3)



資料4 話し合い活動のふり返り



写真3 まとめの会の様子

〔第2段階の考察〕

道徳の時間で自分のよさを見つけ、学級活動で男女関係なく一人一人が自分のよさを生かして実践する姿が多く見られた。多くの子どもがお互いによさを伝え合う中で役割分担し、学級全体の約73%の子どもが自分の得意なことを生かした役割を選択することができていた。(資料4) また、学級全体に思いやりの心についての共通認識が生まれてきた。さらに、一人一人がよさを発揮できるようにするために、活動の幅を広げ、継続的に取り組むことが必要だと考えた。

(3) 実践3 (5学年：1月～、6学年：4月～)

第3段階 実践する段階

本段階のねらいは、男女協力の行動を主体的に実践し、男女協力を学級や学校全体に広げていくことである。そのために、意欲の高まりや高揚感が感じられるように道徳の時間と特別活動を効果的に設定した。

ア 学級活動「思いやりいっぱいキャンペーン」

係活動において、思いやりの心があふれる活動をしようと考え、保健係は「悩み箱」を設置するなど、どの係も創意工夫して取り組み内容を考えることができた。その中で、文集係の「思いやり文集作り」とブック係の「アルコープの本整理」の取り組み(写真4)は、学級だけでなく学校全体に思いやりの心を広げることができるが、係だけでは行っていくことが難しいという理由により、学級会の議題として話し合うことになった。どちらの活動が「思いやりの心が学校全体に広がるのか。」「自分達の力で取り組むことができるのか。」という視点で話し合っ

た。子ども達は、思いやりの心がより学校全体に広げる活動として、文集係の「思いやり文集作り」を選択し、文集発行のために各学級に取材に行き、「思いやり文集作り」を行った。



写真4 ブック係の取り組み

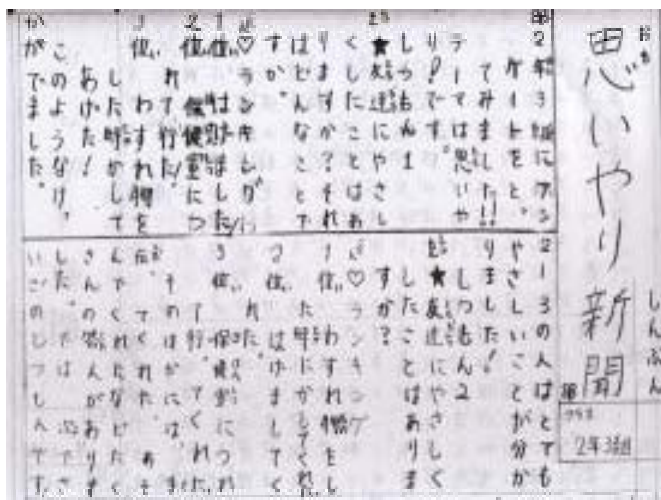


写真5 思いやり文集（2年3組のページ）

イ 道徳「二人のボランティア」（出典：光文書院）

思いやりの心であふれる実践を行う中で、資料「二人のボランティア」を活用し、最高学年として1年生に合わせて優しく接することの大切さについて考えさせた。学習のふり返りで、全員の子どもが「1年生のことをしっかり考えて、最後まで優しく接することの大切さがわかった。」を実感した記述をし、学級全体の約86%の子どもが「最後まで優しく接する心を大切にし、実行していきたい。」とも記述していた。（写真5）

A児	B児	C児
6年生として、1年生の面倒を見て、引っ張っていき、最後まで優しく接したい。	1年生は、小学校で初めてすることも多いので、その手助けになりたいと思った。	1年生がわかりやすいように説明したり、手伝いをしたり、アドバイスしたりしたい。

ウ 学級活動「1年生との交流会」

6年生になると最高学年として、縦割りブロックでの活動をする中で、子ども達の中から「縦割りブロックで一緒に活動することが多かった1年3組との交流会をしよう。」と発案があり話し合った。話し合いの中で交流のめあてを「1年生が楽しめる活動にしよう。」と決め、常に1年生が楽しむことができる活動になっているかどうか考えながら取り組むことができた。また、同級生だけの活動であると、性差を意識したグループ分けや活動内容になってしまうが、1年生との活動ということで、男女関係なく、楽しんだり話し合ったり、悩みを共有したりしていた。

（写真6）交流会後には、1年生からお礼の手紙も届き、6年生としての喜びを感じることができていた。（写真7）



写真6 交流会の様子



写真7 お礼の手紙

〔第3段階の考察〕

実践3では、「思いやり文集」を作成することで、男女関係なくそれぞれの役割を果たしながら一つのものを作り上げる達成感を味わうことができた。また、道徳の時間を効果的に設定することで、道徳の時間で深めた道徳性を発揮し、自分たちの力で「1年生との交流会」を行うことができた。そして、「1年生に楽しんでもらおう。」というめあてをもって、性差を意識せず、男女協力し合って取り組むことができていた。さらに、他の実践においても主体的に取り組むための道徳の時間や、実践に取り組んだことで味わった高揚感を温めるための道徳の時間といった効果的な設定が必要だと感じた。

(4) 実践4 (6学年：12月～)

第4段階 実感する段階

本段階のねらいは、これまで活動してきたことをふり返し、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、男女で協力し助け合ってきたこと実感することである。そのために、これまでの取り組みに対する充足感を味わうことができ、実感することができる特別活動の時間道徳の授業を設定した。

ア 学級活動「思いやりいっぱいキャンペーンの集大成をしよう」

学級活動(1) 話し合いの活動を通して、これまで行ってきた取り組みをふり返し、充足感を味わわせたいと考えた。そのために、まず、これまでの取り組みをふり返った。そうすることで、子ども達の中から、「これまでの取り組みがふり返られ、思い出に残るようなものを作りたい。」という考えが出てきた。そこで、「思いやりいっぱいキャンペーンの集大成をしよう。」という議題で話し合うことになった。話し合い活動の中で、これまでの取り組みが実感できる内容を検討し、現在、文集づくりを行っているところである。また、話し合いの中で、「これまでの経験を生かし、もう一度、1年生との交流会をしたい。」という議題も出てきたため、実現に向けて、さらなる話し合いを重ねている。

イ 道徳

これまでの取り組みをふり返し、男女協力し助け合って実践することができたことを実感することができ、なおかつ高揚感を味わうことができる資料を選定し実践する予定である。

(5) 全体考察

図2から、意識調査における設問「誰に対しても思いやりの気持ちをもって接していますか。」という設問に対し、5学年4月当初は、「とても」「まあまあ」と答えた子どもの割合が77.1%だったが、12月には91.4%と14.3%の上昇が見られた。その後、6学年12月の調査でも、90%近くの割合が保たれている。

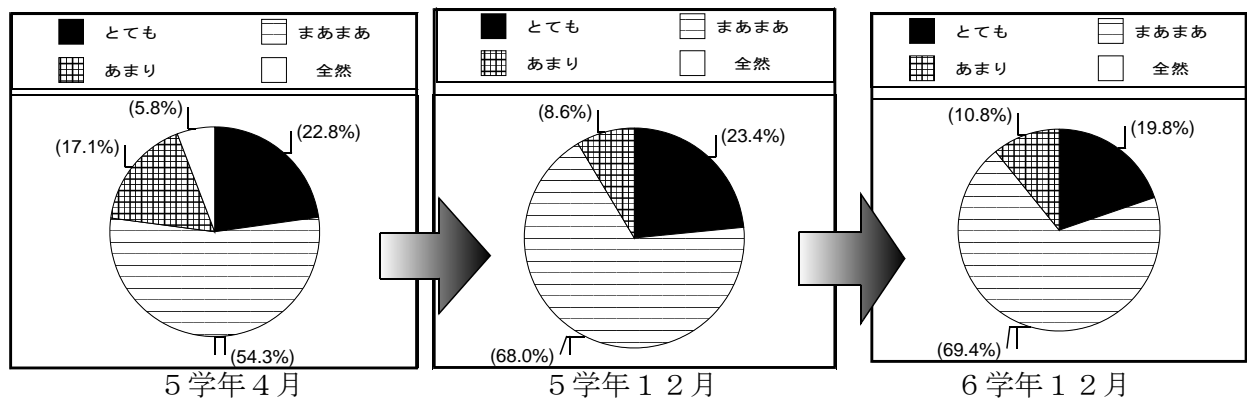


図2 児童の意識調査「男女協力」のアンケート結果

また、「思いやり」という言葉から連想するイメージマップの5学年4月と6学年12月の結果を比較すると、連想する言葉数の学級全体の平均が4.0個から9.6個に増加していた。そこに

記述されている内容も「どちらとも得をする」や「気持ちがいい」といった言葉から、「相手の都合や状況を考える」や「相手のことを思って行動する」、「みんながみんなのことを考えて行動する」といった対象を意識した言葉を連想することができていた。このことから、子ども達の思いやりの理解が深まり、思いやりの行為を行う対象の広がりとして表していると考えられる。

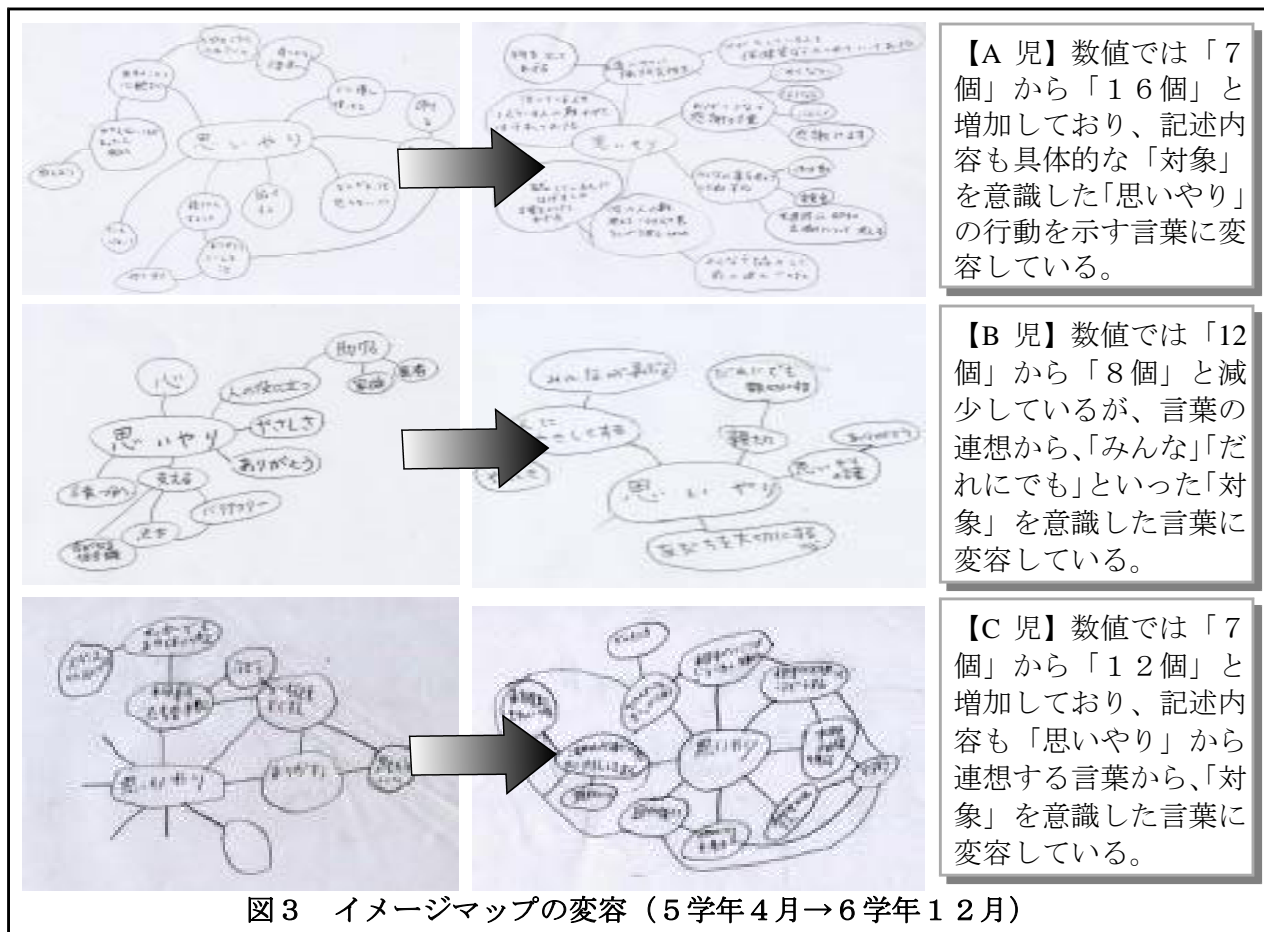


図3 イメージマップの変容（5学年4月→6学年12月）

さらに、6学年12月に行った学級活動「これまでの学級、これからの学級」の授業後に書いた子ども達のふり返りには、「思いやり文集作りや1年生との交流会などの取り組みを通して、学級のみんなで力を合わせて協力することができた。」や「思いやりについて真剣に考え、思いやりいっぱいキャンペーンをしたことで、男女関係なく誰に対しても自然に思いやりの行動ができていく人が多くなった。」という記述が多く見られた。子ども達は、思いやりの心で様々な実践に取り組み、どの活動においても男女協力して取り組むことができていた。

このことから、4つの段階をふまえた取り組みを通して、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、男女が協力し助け合って実践できる子どもを育てることができたと考えられる。

5 実践のまとめ

(1) 研究の成果

- 4つの段階の取り組みをふまえた教育活動を展開することで、それぞれの段階における子ども達の意識の高まりを感じることができ、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、男女が協力し助け合って実践できる子どもを育てることができた。
- 道徳の時間と特別活動を効果的に組み合わせることで、子ども達の意欲や道徳性を高めながら、男女共同参画意識を高めることができた。

(2) 今後の課題

- 男女共同参画意識をさらに高めるためには、明確なめざす子ども像をもとに、道徳の時間と特別活動を関連させた指導を強化することが必要である。
- 年間計画の中で、4つの段階をふまえた特別活動と道徳との関連を図った指導を男女が協力し助け合うという視点から、さらに検討していくことが必要である。